

学研 おんがく通信

Web版も
あるよ★
♪バックナンバーが
閲覧できる!
♪ウェブならではの
情報が満載!

3月号

2013
年
2月
25日

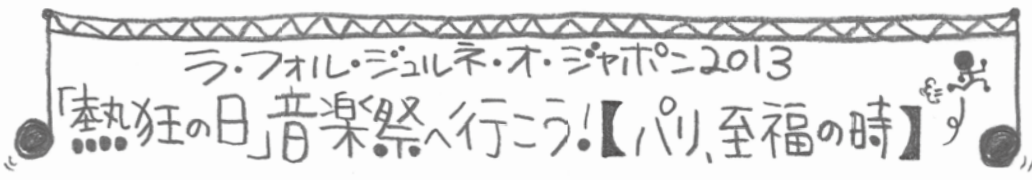
Gakken

(株)学研パブリッシング 音楽出版事業室
〒141-8412 東京都品川区西五反田2-11-8
Tel. 03-6431-1220

学研 おんがく .net <http://gakken-publishing.jp/ongaku/>

学研 電子ストア <http://ebook.gakken.jp/gstore/>

こんにちは！季節の変わり目ですが、みなさん体調を崩していらっしゃいませんか？そういえば私、最近白湯を飲みはじめました。白湯には、代謝をあげ、消化を助け、内臓をきれいに、さらに温める効果があるそうです。ダイエットにも良いみたい!? 慣れると甘みを感じ、不思議に「ほっ」と安心感も得られるような気がします。やかんとお水で簡単健康法! ということで、効果を期待し、続けてみます。(の)



今年のラ・フォル・ジュルネ「熱狂の日」のテーマは、【パリ、至福の時】。

この「至福の時(L'heure exquise)」という言葉は、19世紀後半のパリを代表する詩人、ポール・ヴェルレーヌの詩「白い月」の最後のフレーズから引用されたものです。芸術監督のルネ・マルタン氏は、この言葉を引用することで、至福の時代——19世紀後半から現代まで、150年間のパリを彩った音楽を再現しようとしています。

至福の時代とは、どのような時代だったのでしょうか？19世紀から20世紀にかけて、パリは世界の芸術の首都として新たな時代を築きあげました。印象主義やスペイン・ブーム、アメリカからはジャズの流入…。さまざまなジャンルの芸術家が集い、交流をし、素晴らしい作品の数々が誕生しました。この頃のパリは、才能豊かな作曲家を多く輩出しただけでなく、ヨーロッパ中の作曲家たちの活動の拠点であったのです。

ところで、イメージ画はごらんになりましたか？気球で空中散歩を楽しむ乗組員はアルベニス、メシアン、フォーレ、ドビュッシー、ラヴェル、サティ、ファリャ、プーランク…そして紅一点! 1920年代にパリ芸術家たちのミューズの存在であった、ピアニストのミシア・セールです。みな至福の時を堪能しているような、素敵なほほえみが印象的です。彼らの乗る気球は、パリ万国博覧会の象徴として、パリの空を飛行した気球です。気球からはパリの街並とエッフェル塔などが小さく見えます。…どうやら、どこかに向かっているようですね。そう! この気球の行き先は、日本の会場、東京国際フォーラム!

日本での開催は、今年で9回目。東京での来場者数はなんと延べ526万人だそうです!今回はルネ・マルタン氏の母国であるフランスの作曲家、パリで活躍したスペインの作曲家たちが紹介されるということで、さらに充実したコンサートになりそうですね。日本ではこれまでにない最大規模のフランス音楽の祭典になるそうです。少しずつ情報が公開されていますので、公式サイトなどこまめにチェックしてみてくださいね! (の)

ラ・フォル・ジュルネとは!?

ラ・フォル・ジュルネは、フランスのナント市で誕生したクラシック音楽祭です。会場となる複数のホールで、朝から晩まで、短時間のコンサートが一堂に開催されます。創設者であり芸術監督のルネ・マルタン氏のコンセプトに基づき、旬の若手や一流の演奏家を迎えて行われるコンサートが、低価格で体験できるばかりでなく、クラシック初心者からコアなファンまで楽しめる、ユニークでエキサイティングなプログラムも魅力です。現在ではポルトガルやスペインをはじめ、世界各地で開催されています。日本では「熱狂の日」音楽祭と呼ばれ、毎年大変な賑わいです!

ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン「熱狂の日」2013公式サイト → http://www.lfj.jp/lfj_2013/

待ッテマ〜ス♪



ぴあのどリーむ 情報

今年の成人式、首都圏は近年稀に見る大雪!今年ハタチの「ぴあのどリーむ」シリーズと同年のみなさんで大変な思いをされた方、多かったのでは…?でも式典に参加すると、また新しい「オトナのスタート」に向けて、気持ちが切り替わりますよね。

ところで話は変わりますが、「どリーむの第6巻が終わってしまいそうなんですけど、この先どうすればいいですか?」と言うご質問をよくいただきます。「どリーむ」シリーズは、初めてのピアノにワクワクする気持ちで第1巻を始めてから、永田萌さんの美しいイラストとともにゆっくりと、でも着実に第6巻まで進むと、バイエル教則本を終えたくらい=初級の修了程度の力がつきます。ですから、「第6巻が終わられましたら、ブルクミュラーとかハノンとか…(もごもご)」とこれまでは曖昧にご案内していたのですが…。なんとこの度!20周年を機に「ぴあのどリーむ」シリーズに“中級導入クラス”が加わることになりました!詳しくは来月号でご紹介いたしますので、どうぞお楽しみに。「ぴあのどリーむ」シリーズも、新成人としてまた新たなスタートに向かいます。どうぞよろしくお祈りします!(か)



3月1日はニョパンのお誕生日!!
(1810~1849)

シューマンのショパン発見についてのお話

「諸君、帽子を取りたまえ、天才だ」

1831年にロベルト・シューマンが音楽雑誌に発表した批評にある有名な言葉です。前期ロマン派を代表する作曲家シューマンは音楽批評の分野でも大きな業績を残しました。近代音楽批評の最初期に大きな足跡を残し、その慧眼と明察は高く評価されています。

ここで「天才」と呼ばれているのは、いうまでもなくフレデリック・ショパンです。生年はシューマンと同じ1810年、たがいに20歳を過ぎてこれから人生の大海原に漕ぎだそうという年齢でのことでした。この批評が、類まれな才能と才能の歴史的邂逅を演出することになったのです。対象となった作品は『『お手をどうぞ』の主題による変奏曲』(op.2)、管弦楽の伴奏を伴うピアノ曲。ショパンがまだワルシャワにいた1827年に作曲され、1830年にウィーンで出版された曲です。シューマンの批評はその楽譜によったものです。

「お手をどうぞ」の主題というのは、もちろんモーツァルトの歌劇「ドン・ジョバンニ」の第1幕の名高い二重唱、ドン・ジョバンニが結婚間近の田舎娘ツェルリーナをたらし込む魅惑の旋律です。ショパンの曲は5つの変奏とポロネーズのコーダで構成されています。批評文中、シューマンはその変奏にいちいち文学的な解釈をくわえています。音楽と文学の相互的融合は19世紀ロマン主義のひとつの大きな潮流ともいえる特徴なのです。しかし、それはショパンの是とするところではなかったのでしょうか。友人宛ての書簡でシューマンの批評文を冷笑的に揶揄するような言葉が残されているのです。

前期ロマン派の時代に生まれ、ロマン派音楽の旗手たちにその天才を賛美されながらも、ショパンは夜空の彗星のように独自に孤高であり、海の底にいるような絶対的な孤独の影をかかえています。ショパンの作曲の発想の根源は、ロマン派の作曲家とはまったく別の次元にあったと考えるしかありません。そこを隔てる深淵は思いのほか深く深いようです。(え)



♪フレデリック・ショパン

(ポーランド/作曲家/1810.3.1生)

♪グレン・ミラー

(アメリカ/ジャズ・トロンボーン奏者 他/1904.3.1生)

♪マックス・レーガー

(ドイツ/作曲家/1873.3.19生)

♪ルドルフ・ゼルキン

(チェコ/ピアニスト/1903.3.28生)

今月のあかね先生

「今は、指導者が選ばれる時代なのよね…」とあかね先生。以前はピアノを習っていることがステータス。“先生は絶対的な存在!” というような節もあつたように思います。しかし、最近では、習い事の多様化や少子化の影響で、指導者が選ばれる時代と言えるかもしれません。「私たち指導者には、“どれだけ魅力的なレッスンができるか”ということが求められているのよ。そのためには、指導者同士で情報交換する機会が貴重よね。」(あかね先生談) (いも)

今月のセミナースケジュール

- 2/26 (火): [千葉県/松戸] 伊藤楽器ヤマハピアノシティ松戸店
『子どもが飽きないリズムのレッスン<全2回>-発展編-』
- 3/6 (水): [東京都/銀座] 山野楽器本店
『導入期の楽しいピアノ・レッスン』
- 3/13 (水): [愛知県/名古屋] カワイ名古屋
『子どもが飽きないリズムのレッスン』
- 3/15 (金): [富山県/富山] 開進堂楽器 楽器センター富山
『1音からはじめる楽しいピアノ・レッスン』
- 3/21 (木): [東京都/池上] スター楽器 池上ショールーム
『子どもが飽きないリズムのレッスン』

セミナー会場は、
指導者方が集まる良い機会。
たくさん情報交換して
くださいね♪



大人の科学×音楽最前線

来る3月、日本初のスマホ向けの放送局NOTTVにて新しく科学の番組がスタートします。番組タイトルは『ドコモとドコモとオトナの科学』。NOTTV対応のドコモのスマホあるいはドコモ・タブレットで、ワンセグの約10倍の高画質で番組をご覧いただけます。普通のテレビのようなリアルタイム視聴はもちろんのこと、好きな時間に見られるシフトタイム視聴も選べます。番組では、毎回大人の科学マガジンの中の1アイテムをテーマに、豪華ゲストによるふろくを使ったワークショップやインタビューをお楽しみいただけます。今回取り上げるのは「ミニ・エレキ」「デルタ・ツイスター」「電子ブロック mini」「テオ・ヤンセン式二足歩行ロボット」の4アイテム。各回とも趣向を凝らした15分の番組となっています。第1回目の放送は3月5日。ゲストは明和電機さんです。本誌でも紹介したあの改造作品の登場です。放送時間については、NOTTVの公式HP (<http://www.nottv.jp/>) でご確認ください。



?? レッスンQ&A ???

回答してくださったのは
轟 千尋先生

Q. 和音の変化を上手に響かせる方法を、教えてください。

A. 和音の変化で一番大切なのは、なんとといってもドミナントの緊張から、トニックに到達する、その弛緩・開放です。

色とりどりのハーモニー、そのひとつひとつの変化を表現しようとすると、なんだか大掛かりな感じがしてしまいますが、このドミナントとトニックの連結、特に、曲の締めくくりや、場面の変わり目などにある『大きな終止』を見つけて大事に弾く、それだけで、ひと味違った和声感のある演奏になるんです。

この『大きな終止』のとき、一定のテンポの中で多少減速することは、ごく自然に行われています。楽譜にはrit.と書かれていなくても、自然とテンポがもたついたり、揺れたりする、これがまさに、和音の美しさが生む表情であり、アゴーギクになるんですね。

ドミナントは、一般的な音楽において、とても重要な役割を果たしています。ドミナントが、トニックへ向かいたがるエネルギーを、場面に応じて大切に扱うこと、これこそが、和声感のある演奏につながる、はじめの一歩だと思います。

つむりの練習手帳

去年の11月くらいのことなんだけど、先生が「コンクール、受けてみない？」って言うてくれたみたいで、つむりは今コンクールめざして一生けん命(つむりっぽさはMAXだけ)練習をしています。でも、今月いっぱいではふよみがほとんど終わってないと間に合わないから出られないんだって。つむり以外の全員が受けているのに、あいかわらずにいけないことはリズムを倍にしたのはしゃうつむり。しっかりして…。(トホホお兄)

つむり現在の楽譜 (コンクールにチャレンジ中!!)

- ☆こどものハノン (上) (学研/ブリッジング)
- ☆プレ・インヴェンション (全音楽譜出版社)
- ☆キックオフ! (音楽之友社)
- ☆こどものソナチネ2 (学研/ブリッジング)



糸桶集部のつむりってー!

階段の滑り止め、側溝のフタ。

細い線がたくさんあるモノすべてが五線譜に見える、校了明けの朝…(@_@) (@か)

twitter [@gakken_music](https://twitter.com/gakken_music) リアルつむりってー やってます! 日々のよしなしごとや最新情報をツイートしています! follow me!